

事務事業評価の評価結果について（平成29年度の事業に対する評価）

短期大学事務局

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成29年度）						事業の評価		所管課長等による評価	
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成30年度以降の事業の方向性	所見
大学総務課	短期大学管理運営事業	非常勤講師報酬、校舎棟等の各施設の維持経費、学内の警備等の管理委託経費等により、短期大学の効率的な管理運営を図ります。	卒業生アンケートにおける「総合評価」	毎年、卒業生を対象に満足度調査を実施しており、その「総合評価」を短期大学の管理運営を見る指標とします。	90%	84.5%		実績値が低下した理由としては、施設の老朽化に伴い、安全で快適な環境下で勉学できていないと感じた学生がいたと思われる。	4	計画的かつ効率的な予算の執行に努め、大学の管理運営を適切に行うことができました。 また、いわゆる出口管理である学生の就職支援等についても、就職率の向上や早期の内定など、学生の満足度が向上しました。卒業生アンケートにおいて施設の老朽化に伴う意見が出されていたことから必要な改善について検討が必要である。	拡充・充実	少子化がさらに進み、大学を取り巻く環境がますます厳しさを増している現状において、教育環境の充実にとどまらず、就職支援等、いわゆる出口管理の強化や地方創生への貢献など、短期大学に求められるものが大きく拡大しており、大学運営の効率化を進めつつ、これまで以上に短期大学の魅力向上に取り組む必要があります。
大学総務課	図書館管理運営事業	図書館情報システム機器と学内資料を活用した市民や学生への情報提供を図り、三重短期大学附属図書館の効果的な管理運営を行います。	利用者数	地域住民を含む利用対象者を900人と想定し、平均して月2.8回利用した場合の利用者数30,000人を平成25年度の目標とします。 ひとり当たりの月間利用回数を、平成27年度に2.85回、平成29年度に2.9回に向上することを目標とします。	30,000人	17,515人	図書館利用者の情報リテラシーの向上や人的サービスの更なる促進のため時代に応じた職員の育成を図る。 また、教育・研究内容との連携を図り、併せて施設環境の向上を検討する。	学生及び市民に向けた情報発信に取り組みましたが、目標を達成できず、前年度を下回りました。理由としては、渡り廊下の耐震補強等工事の実施により、附属図書館正面入口を閉鎖していたことによる利用者数減が考えられます。	3	利用者数は前年度から減少し、目標を達成できませんでした。 今後は、職員の対応等、提供しているサービスの向上とともに、利用者が親しみやすく利用しやすい環境づくりと来館機会を増やすようサービス内容について改善を図ります。 また、地域への情報発信を促進し、利用者の増加や満足度のさらなる向上を図ります。	現状維持	図書館情報システムと学内資料を活用した市民や学生への情報提供を図り、三重短期大学附属図書館として効果的な管理運営を行えるよう事務事業を展開していきます。 また、資料の提供はもちろんのこと、資料を活用する講座を開催するなどして利用機会の創出に努めます。 さらに、地域への情報発信を促進し、利用者の増加に取り組みます。

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成29年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成30年度以降の事業の方向性	所見
大学総務課	地域貢献推進事業	<p>教育研究の成果の地域社会への還元等の地域貢献を目的とし、平成20年4月に設置した地域連携センターを中心に、高大連携や市政との連携等の地域連携事業を実施します。</p> <p>また、地域住民の生涯学習意欲が盛んになるなか、様々な形態で公開講座を開設し教育研究の成果を還元することにより、住民の生涯学習ニーズに応えるとともに、地域社会を支える人材の育成に努めることを目的とします。</p>	相互協力協定締結数（累計）	産学連携、高大連携については、相互協力協定を締結して具体事業を進めているところであり、地域連携の成果及び形として相互協力協定数を指標とします。	7件	6件		高大連携協定締結校との連携事業の実施に加え、出前講座の実施等を通じ、新たな連携に取り組みました。	4	<p>市政との連携は最重点課題であり「政策研究・研修」等の取組みにより、教育研究の成果を発揮することができた。産学連携、高大連携協定に基づく取組みやシーズ集を活用し、高等学校や地域の経済団体等へ三重短期大学の存在を広めることができた。地域連携講座の開講、みえアカデミックセミナーへの参加に加え、オープンカレッジや出前講座についての取組みを進めることにより、生涯学習機会の提供ができた。学生が地域と連携する取組みについては、学生の地域清掃活動への参加や、他大学との連携による中心市街地の空き店舗を利用したカフェの運営など、従来からの取組みの継続に加え、津市消防団学生機能別団の活動支援等の取組みを進めることができた。</p>	拡充・充実	<p>産学連携や高大連携、学生が主体となって地域と連携する取組みや市民向け公開講座については、継続して実施したことにより安定して実施できるようになってきました。</p> <p>従来からの取組みに加え、さらなる連携事業への取組みを進めるとともに、学生・教職員の連携をより密にし、全学的な取組みを一層推進します。</p>
大学総務課	地域問題研究事業	<p>三重短期大学地域問題研究所は、地域問題に関する学術的な研究機関として活動してきた「地域問題総合調査研究室」を平成20年4月に改組したもので、本学の研究活動の一つの拠点です。</p> <p>ここでの地域問題の研究は、大学側（教員）から見れば研究活動の充実、地域社会からみれば課題の解決等につながるものです。</p>	研究テーマ数	本来なら、研究成果に対する地域社会の満足度等の指標設定をしたいところですが、成果公表が年報の発行等に限り、当面、研究件数を指標とします。	20件	15件		<p>研究件数は15件で、前年度より1件増加しました。</p> <p>引き続き、研究件数を増すとともに研究内容の充実に向けて努めていきたいと思っております。</p>	3	<p>地域問題の調査研究は、大学運営の重要な要素であり、この研究成果を地研年報や地研通信にとりまとめて公表し、市民に還元することができた。</p> <p>今後は、行政や学外の団体、企業との共同研究なども展開できるような体制づくりを引き続き行い、地域問題研究の幅を広げていく必要がある。</p>	現状維持	<p>地域問題の研究は、公立短期大学に求められる使命でもあり、研究件数の増もさることながら地元・地域に密着した研究内容の充実について、更に積極的に取り組んでいく必要があります。</p>

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成29年度）						事業の評価		所管課長等による評価	
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成30年度以降の事業の方向性	所見
大学総務課	教育研究関係事業	教員（専任教員）の図書費や学術研究旅費の支出、また実験実習用機器、教育用パソコン周辺機器等の配置により三重短期大学教員の教育研究活動を充実させ、学生への教育レベルの向上を図るとともに積極的な地域住民への教育研究の成果還元を図ります。	学生の進学・就職率	教育研究の教育の成果として、学生の就職率（進学・就職者数／卒業（既就者等を除く）者数）を指標とします。	90%	96%		就職内定率が前年度を若干上回り、就職支援の成果が現れています。引き続き、就職及び編入学についての支援に取り組みます。	4	計画的かつ効率的な予算執行に努め、大学の教育研究を充実させることができました。就職内定率の向上等のいわゆる出口管理状況が好調であったことは教育研究の成果が反映されたものと考えています。	現状維持	三重短期大学の教育研究活動を充実させるため必要な事業です。教育研究活動の成果は学生に還元されるものであるため、その教育研究成果に係る評価の実施に向けた検討を行う必要があります。
大学総務課	短期大学施設維持補修事業	三重短期大学の校舎や体育館等の施設は老朽化が進んでおり、安全・安心かつ快適な学生生活を確保した適切な大学運営を行うため、故障箇所等の維持修繕を行います。	施設の維持管理	安全・安心な学生生活を確保するため、施設の適正な維持管理を指標とします。			故障箇所の速やかな改善と適切な維持管理を行います。	故障・破損箇所の必要な施設維持修繕について優先度を考慮しながら対応しました。	3	施設の老朽化に伴い、施設維持修繕の必要性が高まっている状況であり、平成29年度は渡り廊下の耐震補強及び管理棟出入口のスロープ改修工事等を実施することができました。今後も学生の安全と快適性確保と併せ、学生確保の観点からの環境整備を進めて本学の魅力向上に繋げるよう計画的に実施したいと考えています。	拡充・充実	施設の老朽化が進む中、今後さらに故障箇所が増加することは必至です。応急的、対処的な改修から、大規模、抜本的な改修も踏まえた、長期的な施設管理計画の策定に向けた取組みを進めます。